伏見班　夏季セミナー

Accessを用いたEFデータ分析

北海道大学病院
地域医療指導支援センター
藤森　研司

2012.8.6　産業医大

注意事項

- MS-AccessによるDPCデータ活用の演習です。基本加工済みのサンプルデータを用意しました。
- 各自、圧縮ファイルをダウンロード＆解凍後、Accessでファイルを開けることを確認してください。
- 演習はAccess 2007以上を対象に行い、その他のバージョンはサポートしません。必ずAccess 2007以上をお持ちください。
- Eファイル、Fファイルは、旧来の別ファイル型を想定していますが、統合EFファイルの扱い方も説明します。
- 二口以上の電源延長ケーブルを1本用意ください。

Accessによるデータ分析の流れ

① *Accessテーブルのデータ定義をする*

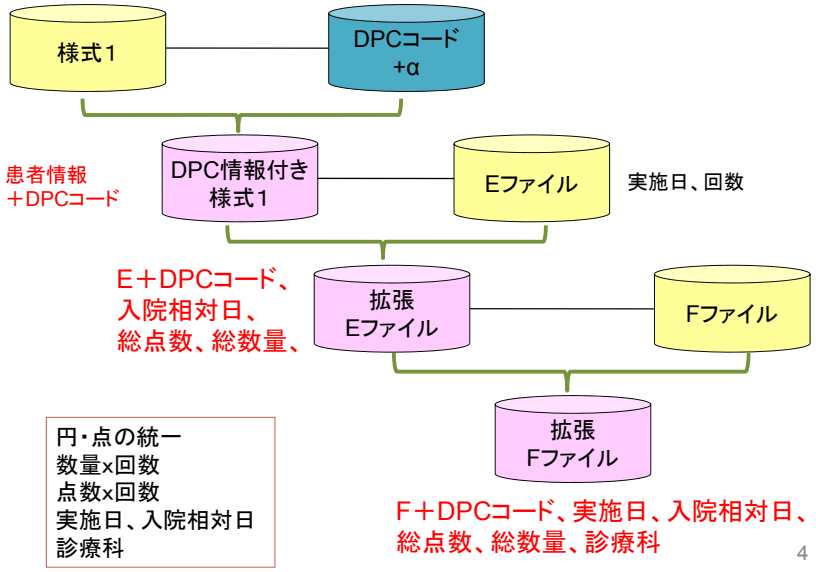
② *DPCデータをインポートする*

③ *DPCデータを分析用に加工する*

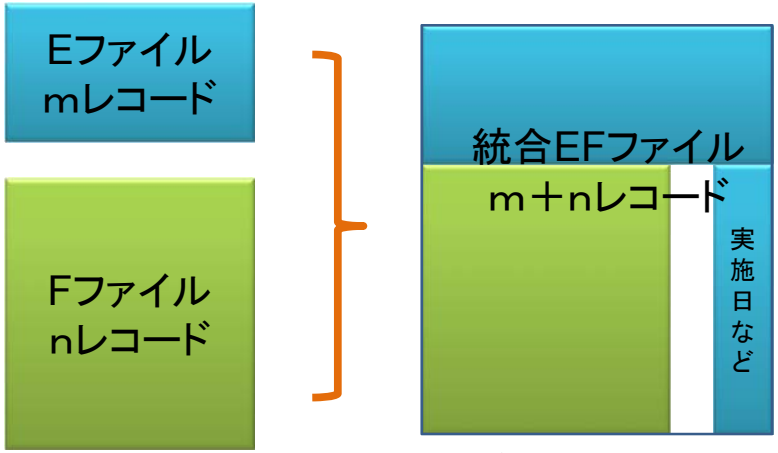
④ データを分析する

⑤ 結果を可視化する

③ DPCデータを分析用に加工する

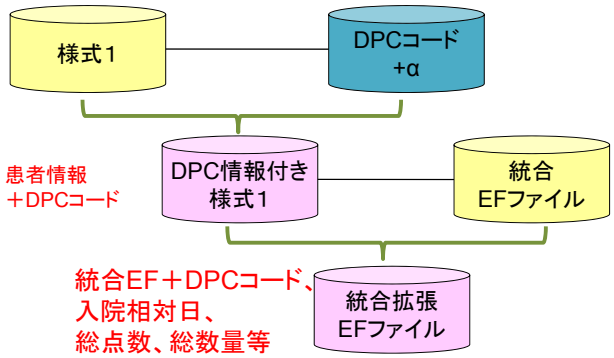


EF統合ファイルについて



- 行為明細番号0000が、旧来のEファイルのレコードに相当する（合計点数が得られる）
- 行為明細番号0000以外が旧来のFファイル由来。新たに実施日や回数が付加されている

③’ DPCデータを分析用に加工する（統合EFファイルを使用する場合）



円・点の統一
数量x回数
点数x回数
入院相対日
診療科

- 行為明細番号0000のみを使用すると旧来のEファイルのレコードに相当し、合計点数が正しく得られる。
- 行為明細番号0000以外が旧来のFファイル由来。すでに実施日や回数が付加されている。行為の集計の場合は、行為明細番号0000を除外することを忘れないように。

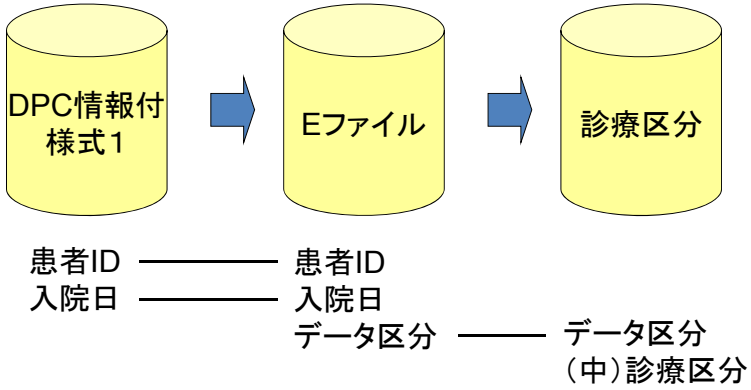
Eファイルの特徴と留意点

- 一行為（一連の）ごとのレコード
- 名称は代表、点数は合計（詳細はない）
  - コードで行為を抽出することは困難
- 実施日を持つ （相対日数の計算が可能）
- 患者ID、入院日で様式1と連携
- 診療区分別に連番（診療区分、順序番号）
- 行為の回数情報を持つ
- 行為点数は薬剤料、材料料を含む
- 円か点かの識別子あり

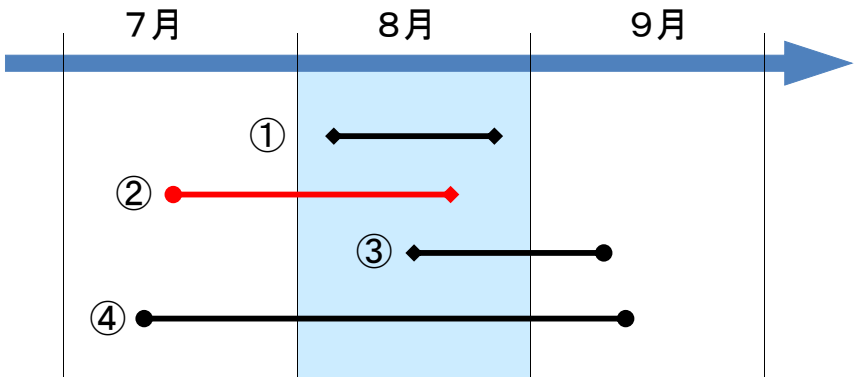
診療区分の
まとめ方（例）

Eファイル上のコード		まとめた内容	
データ区分	データ区分名称	中診療区分	中診療区分名称
11	初診	10	診察料等
12	再診		
13	指導		
14	在宅		
21	内服	20	処方
22	屯服		
23	外用		
24	調剤（入院）		
25	処方		
26	麻毒		
27	調基		
28	その他（入院）		
31	皮下筋肉内	30	注射
32	静脈内		
33	その他		
39	薬剤料減点（入院）		
40	処置	40	処置
50	手術	50	手術
54	麻酔		
60	検査	60	検査
70	画像診断	70	画像診断
80	その他	80	その他
90	入院基本料（入院）	90	入院
92	特定入院料（入院）		
97	食事療養・標準負担額（入院）	97	食事

Eファイルの基本的取り扱い方法



データの存在範囲に合わせ、入院日を絞り込む



様式1は退院ベース
E,Fファイルは診療月ベース

日付の取り扱いについて

- DPCデータの日付は、yyyymmdd型 （例、20100819）なので、そのままでは四則計算はできない。
- テキスト型で読み込み、計算時に関数で変換する。

アクセス： format([入院日],"@@@@¥/@@¥/@@")
エクセル： text([入院日],"####-##-##")

課題　様式1
①Q_FF1平均在院日数

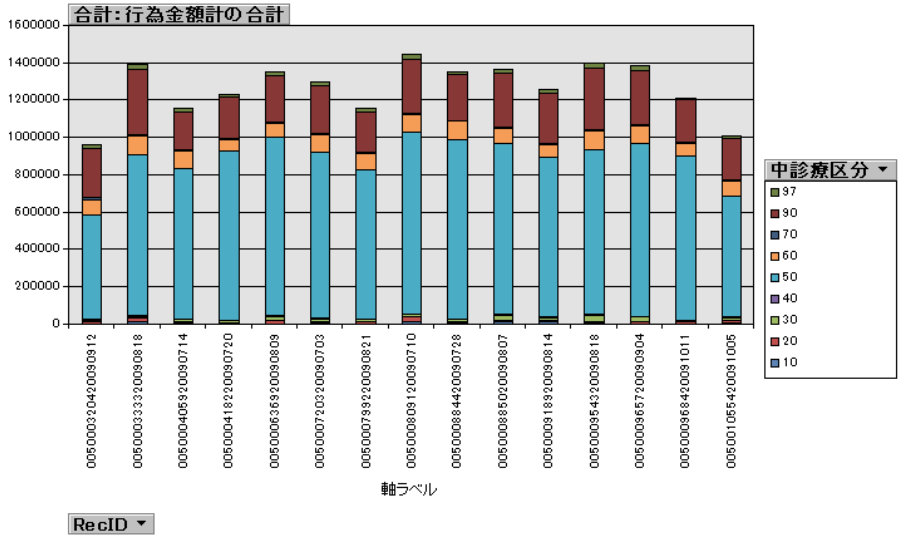
- DPC14桁別の自院の平均在院日数とそれに対する入院期間Ⅱを求める。
- 加えて、症例数を表示する。
- 但し、5例以上のものに限定する。
- 平均在院日数は小数点1桁とする。

DPC14桁	DPC6桁名称	症例数	平均在院日数	入院期間II
010010xx01x0xx	脳腫瘍	10	64.6	24
010030xx03x0xx	未破裂脳動脈瘤	5	15.4	11
010030xx99x0xx	未破裂脳動脈瘤	8	2.3	4
010060x099x00x	脳梗塞	6	3.3	10
010060x099x01x	脳梗塞	5	9.6	19
010060x099x3xx	脳梗塞	14	19.4	19
010100xxxxx0xx	脱髄性疾患（その他）	5	29.4	25
010130xx99x0xx	重症筋無力症、その他の神経筋障害	12	32.3	20
010170xx99x1xx	基底核等の変性疾患	10	39.8	21
010230xx99x00x	てんかん	12	14.7	6
020080xx97xxxx	眼窩腫瘍	8	10.9	11
020110xx97x0x0	白内障、水晶体の疾患	70	7.1	4
020110xx97x0x1	白内障、水晶体の疾患	24	9.5	9

課題　Eファイル
②Q_E集計

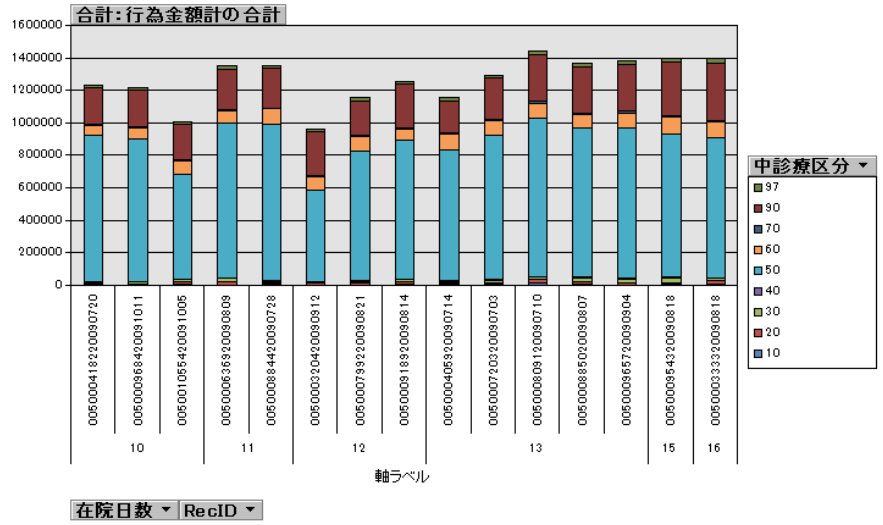
DPC14桁別患者別の診療区分の

行為金額の積み上げグラフを作成する



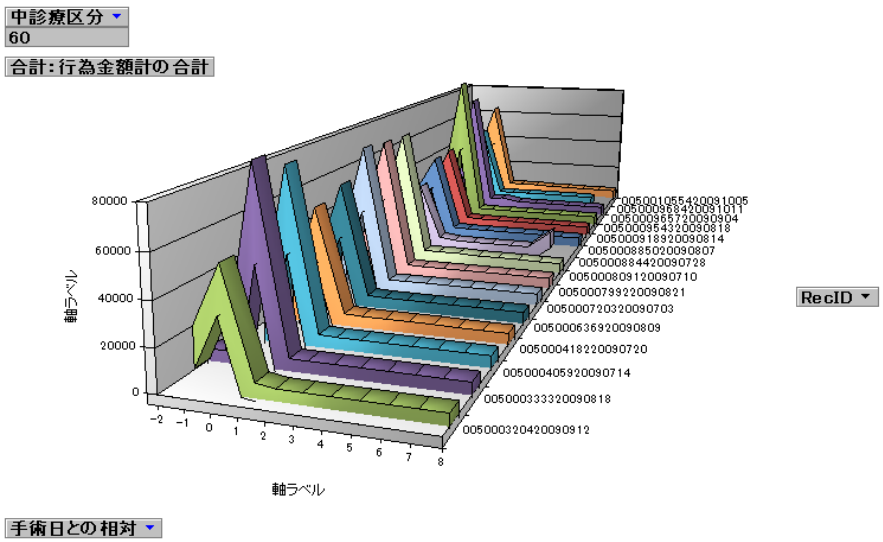
課題　Eファイル
③Q_E集計_在院日数順

- DPC14桁別患者別の診療区分の行為金額の積み上げグラフを作成する。
- 在院日数順に並べる。



課題　Eファイル
④Q_E集計日別

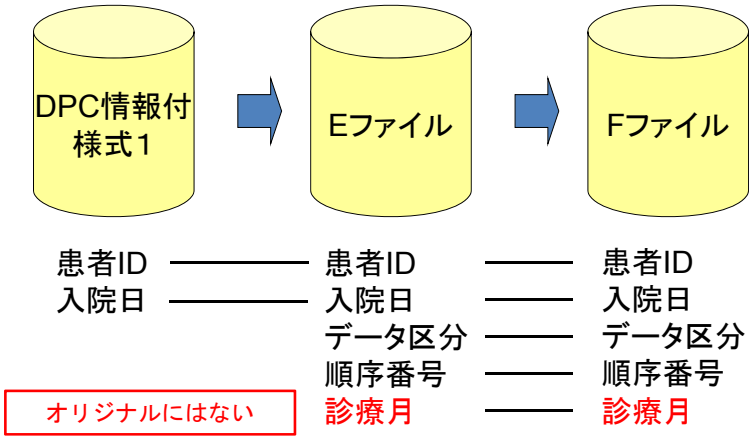
ある特定のDPC14桁で、手術日を起点とする特定の診療区分の患者別日別行為点数の推移をプロットする



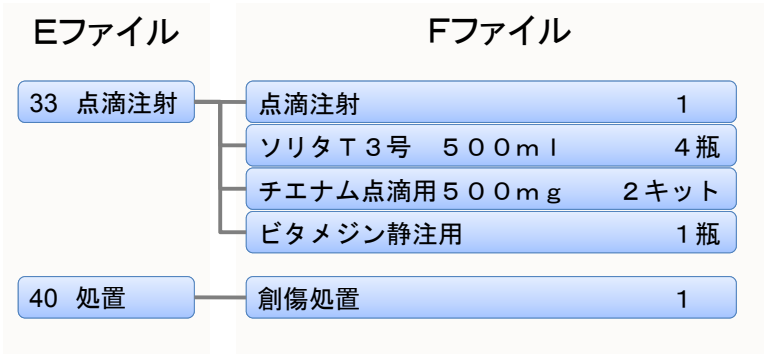
Fファイルの特徴と留意点

- 個体レベルの名称と点数、数量
- 厚労省のマスター準拠
- 実施日、行為回数は持たない（Eファイルに）
- 患者ID、入院日、退院日、診療区分、順序番号、診療月でEファイルと連携
  - 診療月は元データにはないので、インポート時に追加する必要あり（Eファイルにも）
- 薬剤、材料は別掲ではない
- 円か点かの識別子あり

Fファイルの基本的取り扱い方法



Eファイル・Fファイルの関係



診療科、医師、病棟、
実施日、回数が記述される

個別名称と数量が記述される

EファイルとFファイルの比較

	Eファイル	Fファイル
実施日	○	×
行為回数	○	×
一回数量	×	○
名称及びコード	代表	個別
点数	合計	個別
保険情報	○	×
診療科情報	○	×
主治医情報	△	×

○ あり（必須）、△ あり（非必須）、× なし

計算項目の留意点

1オーダの総点数

＝ Eファイルの点数 x Eファイルの回数

品目の数量合計

＝ Fファイルの数量 x Eファイルの回数

品目の点数（薬価）合計

＝ Fファイルの点数（薬価） x Eファイルの回数

課題　Fファイル
⑤Q_F行為回数比較

あるDPC14桁で該当患者別に行為別の数量を表示する。

→　バラツキの確認

④Q_F行為回数比較

ここにフィルタを設定するフィールドをドロップします

中診	レセプト電	診療明細名称	RecID 0050003204200909120 合計：使用量	0050003333200908180 合計：使用量	0050004059200907140 合計：使用量	0050004182200907200 合計：使用量	0050006369200908090 合計：使用量
30	130000210	精密持続点滴注射					1
	130003810	点滴注射	1	1	1	1	1
	620000339	ラシックス注20mg					
	620002258	ツインパル 500mL	7	5	5	6	5
	620002283	ヘパフラッシュ10単位／mL	3	8	12	6	17
	620002923	ガスター注射液20mg 2mL					
	640443048	フルマリンキット静注用1g（	2	2	2	2	2
	641140082	レペタン注 0.2mg					
	641140150	ロピオン注 50mg5mL	1	2	1	2	1
	642110112	ジゴシン注 0.025%1mL		1			1
	642110123	ネオフィリン注 2.5%10mL		1			
	642120021	ワソラン注 0.25%2mL					
	642140023	ペルジピン注射液10mg 10					
	642170021	シグマート注12mg					4
	642390005	プリンペラン注射液 0.5%2					
	643310182	生理食塩液 20mL	1	2	1	2	2
	643310183	生理食塩液 100mL		1			
	643310335	生理食塩液 50mL		1			1
	643310501	ヴィーンF注 500mL					
	646110047	ダラシンS注射液 600mg					
	646130369	カルベニン点滴用0.5g 50					
40	140001010	創傷処置5		1			
	140005610	酸素吸入	1	1	2	1	1
	140032310	ドレーン法(ドレナージ)(持続					

課題　Fファイル
⑥Q_F行為回数日別表示

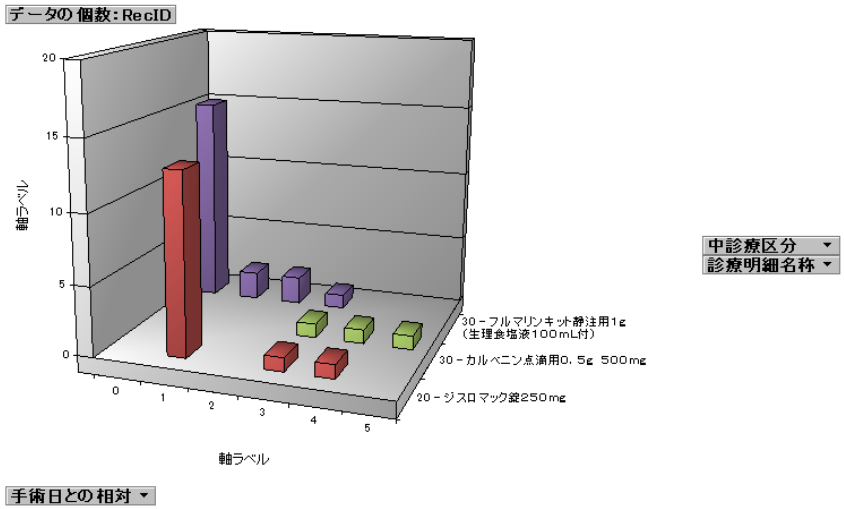
あるDPC14桁で該当患者の行為別の経過日別実施数を表示する。

→　パスの確認

④Q_F行為回数日別表示

ここにフィルタを設定するフィールドをドロップします

中診	レセプト電	診療明細名称	手術日との相対 −1 データの	0 データの	1 データの	2 データの	3 データの	4 データの	5 データの	総計 データの
30	130000210	精密持続点滴注射			1					1
	130003810	点滴注射			15	1				16
	620000339	ラシックス注20mg				1				1
	620002258	ツインパル 500mL		15	15	1				31
	620002283	ヘパフラッシュ10単位／mLシリンジ10mL		14	15	8	5	4	2	48
	620002923	ガスター注射液20mg 2mL		1						1
	640443048	フルマリンキット静注用1g（生理食塩液10		15	2	2	1			20
	641140082	レペタン注 0.2mg		1						1
	641140150	ロピオン注 50mg5mL		5	11	2	2			20
	642110112	ジゴシン注 0.025%1mL		4				1		5
	642110123	ネオフィリン注 2.5%10mL		1	1					2
	642120021	ワソラン注 0.25%2mL						1		1
	642140023	ペルジピン注射液10mg 10mL		1						1
	642170021	シグマート注12mg		2						2
	642390005	プリンペラン注射液 0.5%2mL		2	2	1				5
	643310182	生理食塩液 20mL		9	11	2	2	1		25
	643310183	生理食塩液 100mL		3	2	1	2	1	1	10
	643310335	生理食塩液 50mL		4	2	1				7
	643310501	ヴィーンF注 500mL		4						4
	646110047	ダラシンS注射液 600mg		2	2	2	1			7
	646130369	カルベニン点滴用0.5g 500mg					1	1	1	3
40	140001010	創傷処置5						1		1
	140005610	酸素吸入		1	13	4	2			20
	140032310	ドレーン法(ドレナージ)(持続的吸引)		6	15	13	8	2		44

課題　Fファイル
⑦Q_F抗菌剤

術後の抗菌剤につき、術後日数と使用人数を薬剤別にプロットする。